

# Targeting epigenetics in melanoma

加藤 真一郎 先生

(Shinichiro Kato, PhD.)



Research Fellow  
Massachusetts General Hospital,  
Harvard Medical School (David Fisher Lab)

日時：2019年2月5日（火）16:00-17:00

場所：医学部 中研究棟5階5-2 共通セミナー室

悪性黒色腫（メラノーマ）は、ほくろのがんとして知られ、近年本邦においてもその罹患人口は増加傾向にある。メラノーマは、その高い転移・再発率と化学療法、放射線治療に対する高い抵抗性のため、近年のBRAF阻害剤、MEK阻害剤、チェックポイント阻害剤の発見に至るまでは致死的な疾患の一つであった。ところが、これらの分子標的治療薬の奏功率は限定的で、ほぼ確実に耐性が生じてしまうという課題を抱えており、依然として継続的な治療標的の探索、新たな治療法の確立が求められている。我々は、メラノーマ患者においてヒストンメチル化酵素G9aの遺伝子変異、コピー数増幅（recurrent mutation/copy number gain）を見出し、メラノーマの“がん遺伝子”として機能することを明らかにした。本セミナーでは、我々の知見を交え、G9aを標的とした治療法の可能性について紹介させて頂きたい。またBroad Institute of MIT and Harvardが公開しているAchilles ProjectおよびCancer Dependency Mapから見出した、もう一つのエピジェネティクス制御因子-ヒストン脱メチル化酵素LSD1についても触れる。

加藤先生は、エピジェネティクスに着目して精力的に研究を展開しておられる気鋭の若手がん研究者です。どうぞお気軽にご参加ください！

問い合わせ先

北海道大学遺伝子病制御研究所 がん制御学分野

園下 msonoshita@igm.hokudai.ac.jp 5148（内）